

住宅追い出し強制執行を許さず西郡8家族を防衛する決議

7・31大阪府警公安三課・機動隊を先頭に八尾市住宅管理課、裁判所・執行官、総勢200名が行った西郡住宅8家族の供託者への住宅追い出しの強制執行の「通告」は襲撃そのものであり絶対に許されません。8家族を先頭に全国水平同盟西郡支部、八尾北医療センター労組、関西合同労組大阪東部支部の仲間はこの暴挙を徹底的に弾劾し闘い抜きました。

八尾市は合い鍵を持っていながら「ピッキング」までして家屋に侵入して蹂躪し、家財を物色し、張り紙を行った。これこそ「強盗」であり、国家暴力そのものではないか！連日、いやがらせ電話や書類を送りつけるやり方は彼らの不正義性を示してあまりある。

こんなやり方で八尾北・西郡の闘いを押しつぶすことは出来ない。「怒りではわたが煮えくりかえる！」「こんな人間のことか！」「命ある限り闘う！」「生きて生き抜けば我々の勝ち」と怒りの炎は更に更に燃え広がっている。

「応能応益家賃制度」を新自由主義の団結破壊＝非正規職化、更地化・廃村攻撃、労働者階級総体に対する攻撃として捉え、八尾北医療センターとその労組を拠点に17年間、絶対反対を貫いてきました。ありとあらゆる八尾北・西郡潰しの攻撃が破産し、追い詰められて、9月19日の大阪高裁控訴審判決と21日の全国闘争を前に「強制執行の通告」をせざるを得なかったのだ。

この攻撃は安倍政権の戦後史を画する侵略戦争に向けた「7・1集団的自衛権閣議決定」と一体であり、今のうちに階級的な労働者人民の闘いを押しつぶさなければ支配階級が打ち倒されかねないという危機から来る絶望的なものです。国鉄闘争を基軸に非正規職撤廃を正面課題に掲げ、闘う労働組合を作ろうという、全く新たな部落解放運動を推し進める全国水平同盟西郡支部の八尾北医療センター労組、関西合同労組大阪東部支部との一体となった闘いは新自由主義のを根底から覆す団結を拡大している。これに恐怖したのが今回の強制執行の「通告」の強行です。

星野解放闘争と西郡の闘いは一つだ。星野文昭さんの40年に及ぶ不屈非妥協の闘いはすべての労働者人民に勇気と希望を与えている。八尾北・西郡を潰して全国水平同盟の闘いを解体しようとする攻撃を打ち破る闘いは、星野無期攻撃を打ち破る闘いそのものです。新自由主義のすべてを奪う攻撃に団結を広げて、すべてを奪い返そう。

8月20日から強制執行が強行されようとしている。この只中で、八尾北医療センター労組は絵画展と星野暁子さん招いての学習会・交流会を開催する。百万人署名運動の爆発的發展を勝ち取る闘いとして成功させ、西郡の8家族を守り抜こう。

9月21日、全国から西郡に総結集しよう。激励(檄文など)と緊急カンパを送ろう。八尾市への抗議の電話・FAXを集中しよう。勝利の日まで共に闘う！

右、決議する。

2014年8月16日

星野さんを取り戻そう！全国再審連絡会議 全国総会